

Book Review



デンタルハイジーン BOOKS
対話形式でわかる！

歯科医院で伝えたい栄養のこと

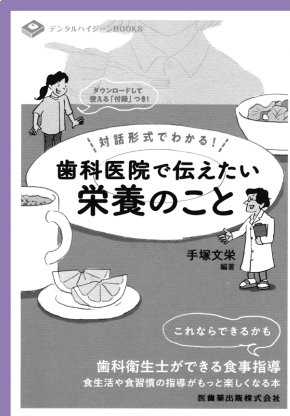
手塚文栄 編著



Reviewer

弘中祥司 Shoji Hironaka
(昭和大学歯学部口腔衛生学講座)

A5判, 136頁
2色
定価 3,960円
(本体 3,600円+税 10%)
医歯薬出版刊
2024年5月発行



歯科医師や歯科衛生士の業務内容は変革する時期になっており、単に齲蝕や歯周病の予防や治療だけではなく、より良く食べることをサポートする時代に突入している。これは、要介護高齢者や虚弱老人だけではなく、ライフステージ全般に言えることであろう。

口腔機能発達不全症や口腔機能低下症、あるいは周術期等口腔機能管理やオーラルフレイルなど、近年新しい概念・用語が続々と登場しているが、共通しているのは「口腔機能」に集約されていることである。では、口腔機能をより良く維持することとは何であろうか？ 口腔疾患の治療も、口腔を清潔に保つことや機能歯数を増やすことも重要であるが、生物である人間の生きる原動力である「栄養」について、効率良く摂取することが重要である。ライフステージや性別、体格など栄養に関してもさまざまなパラメータが存在するが、歯科疾患の治療において

も、患者個人に適した食生活や食習慣の指導がこれまで以上に重要な時代となってきている。

もちろん栄養士と連携をとれば完璧な指導になることはわかっているが、地域の歯科医院で勤務している栄養士の割合はとても低いのが現状である。そのジレンマを紐解いてくれている本書を企画されたことに敬意を表したい。

本書は図や写真、実例をふんだんに利用しており、ビジュアル的にも読みやすい対話形式の構成となっている。また、基礎から実践編へと細かくライフステージに対応しているため、いま実際に食事指導で悩んでいる歯科衛生士にとって、さらにはダウンロードして使える「付録」までであるため、実践してみたいが雛形がないと嘆いている方にはうってつけの一冊であろう。

実は、歯科衛生士の教育課程においては、栄養学が必須であるが、時間数

も限られているため、やや難解であり、欠乏症や過剰症が講義の中心に構成されている。しかしながら、実際の臨床ではさまざまなライフステージの患者が来院し、欠乏症や過剰症の方ばかりではない。そして、栄養指導をメインに歯科医院に来院されている訳でもない。口腔を健康に保つことに役立つ栄養のエッセンスを歯科衛生士が行う指導に取り入れることはとても有用で、また患者が歯科衛生士に話を聞きたいと、歯科医院へ来たいことは間違いないであろう。

医療・福祉・学校の関係者が私たち歯科医療関係者に求めているのは、安全に美味しく楽しく食事ができる口腔であり、またそのなかでも口腔機能に着目されている今日、すべての歯科衛生士に必携の書であると推薦したい。本書を通じて、歯科衛生士が行う、食生活や食習慣の指導がもっともっと楽しくなることを切に願っている。